

## 日本について

『原爆の子〜広島市の少年少女のうたえ』は、原爆投下から6年後の1951年、長田新により岩波書店から刊行された原爆体験文集です。

1945年8月6日広島市の原爆に被爆した教育学者・長田新は、被爆した少年少女の手記を集めて平和教育の研究資料とする計画を立てました。彼は学生とともに作文用紙を持参して広島市内外の小・中・高・大学、さらに孤児収容施設などを巡回し、手記の執筆を依頼しました。この結果、1,175名の手記が集められ学生により清書されました。2009年までの時点で14の言語で翻訳、世界中に出版されています。

## 私の平和への思い

今まで原爆のいろいろな話を聞いて、改めて、戦争や原爆の恐ろしさを知り、平和の大切さを学ぶことができた。日本は世界で初めて国に原爆が落とされた国で、原爆の恐ろしさは日本国民だけもか知らせてることだと思っけと、他の国の人にはそこまで深く知って、いる人は少ないんじゃないかと思った。原爆が落とされた国は日本で最初で最後であるはずだし、これから先の10年後50年後、日本に原爆が落とされたというところが遠い歴史になっても、おとつと後の世代に、世界中の人に伝えていく必要があると思った。